

# ICTの進展等を踏まえた薬局機能の高度化推進事業 (薬局DXの推進事業)

一般社団法人京都府薬剤師会  
副会長 渡邊大記

## 事業目的

オンライン診療・オンライン服薬指導の普及及びデータヘルス改革・電子処方箋の導入を通じた各種医療情報の共有が進む中で、薬局薬剤師は デジタル技術を活用して、患者・国民サービスの質及び利便性の向上を図る取組を積極的に進めていくことが求められている。

デジタル技術の活用を進め薬局薬剤師DXを実現するため、先進的な取り組みの効果を検証するとともに、均てん化のための方策を検討することを目的とする。

## 京都府

### DTx(デジタル治療)に臨む患者への薬局支援の有用性検証事業

医師から医療機器プログラムアプリ（高血圧治療補助アプリ）の処方・説明を受けた患者に対して、**薬局薬剤師が投薬時や継続的服薬指導時等に、アプリの導入・使用についてサポート**することにより、血圧等情報の入力の流れを防ぐとともに、入力された情報をもとに医師が診察を行うことで円滑な治療に繋がることを検証する。

また、**医師、薬剤師及び患者へのアンケートを調査・分析することで**、薬剤師がDTxのサポートを行うことの利点や課題等を明らかにし、薬局DX推進に資する知見の取得や、薬剤師によるDTx支援の取り組みのを均てん化を図る。

#### 検証に用いた医療機器プログラム

保険診療として使用可能な「CureApp HT 高血圧治療補助アプリ®」を使用。

#### 事業参加薬局

京都府内の薬局から参加希望薬局を募集し、事業内容の理解、薬剤師に対するDTxの事前研修として本アプリの取扱いに精通した医師によるオンデマンド研修の聴講、処方医との事前打ち合わせを実施して事業に臨んだ。

#### 患者支援の内容

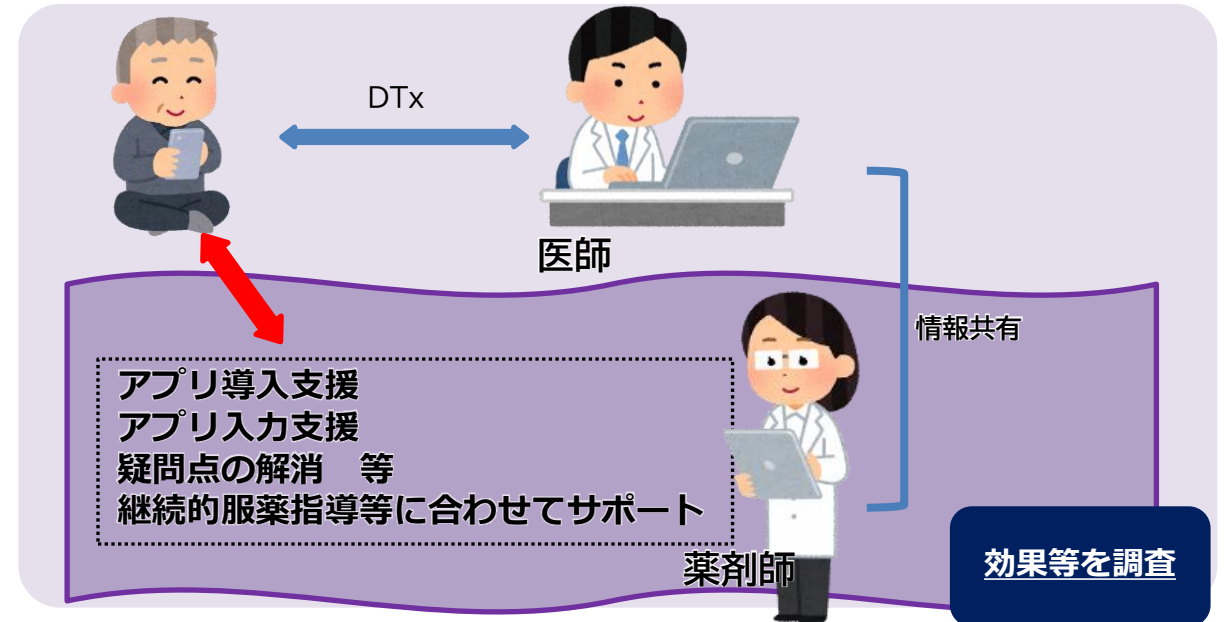
- 初回薬局来局時・・・処方直後のアプリの初期設定、使用方法の説明
- アプリ使用開始後・・・次回通院（1ヵ月後）まで週1回の電話による連絡、助言、不安や疑問の解消等を実施

#### 患者支援実施期間

2023年12月～2024年2月

#### 検証方法

患者さん、医師及び薬剤師を対象として、アプリ処方時と次回通院時の2回、アンケート調査を実施  
(期間中の処方実績が少ないため、全ての患者に薬局支援を行うこととし、薬局支援の有無による効果の比較を行うことはできなかった。)



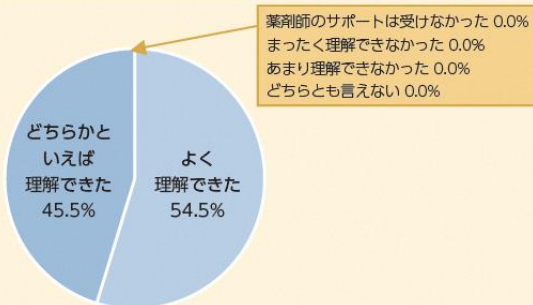
## 事業結果

医師と薬局薬剤師が連携し、治療アプリを処方された患者の支援を薬剤師が行い、医師、患者及び薬剤師にアプリ処方時と次の通院（来局）時の2回、アンケート調査を実施して、薬剤師の患者支援効果を検証した。

※ 期間中にアプリを処方した医院は5件、処方を受けた患者は12名、支援した薬局は4件。

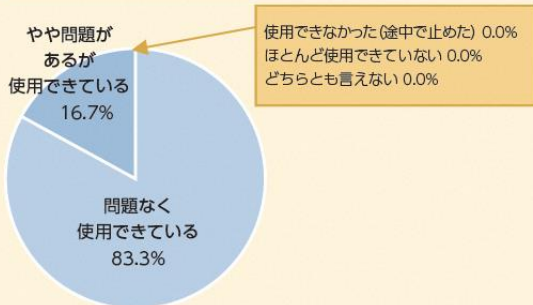
### 患者アンケート

初回来局時の薬剤師の支援による患者さんのアプリの使い方の理解（患者アンケート）



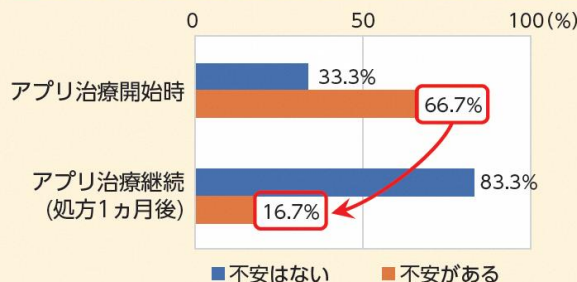
✓ 薬剤師がアプリを処方された患者を支援した結果、すべての患者がアプリの使い方に一定の理解を示した。（「よく理解できた」+「どちらかといえば理解できた」）

初回来局から1ヵ月後の患者さんのアプリの使用状況（患者アンケート）



✓ 薬剤師が定期的に患者の支援を実施した結果、初回来局から1ヵ月後もすべての患者がアプリを使用している。（「問題なく使用できている」+「やや問題があるが使用できている」）

アプリを使った治療を継続するにあたり患者さんが不安に感じる事（患者アンケート）



✓ 患者の多くは“アプリを使い続けられるか不安”であった。  
 ✓ アプリ治療開始時に不安を感じる患者は7割近くいたが、薬剤師の支援後は2割弱となり大幅に軽減された。

### 医師アンケート

薬剤師が患者さんを支援することによる、医師の負担軽減とアプリ使用継続の寄与度（医師アンケート）

医師の負担軽減への寄与

とても寄与した（100%）

やや寄与した 0.0%  
 どちらでもない 0.0%  
 あまり寄与しなかった 0.0%  
 まったく寄与しなかった 0.0%  
 分からない 0.0%

患者のアプリの使用継続への寄与

とても寄与した（100%）

やや寄与した 0.0%  
 どちらでもない 0.0%  
 あまり寄与しなかった 0.0%  
 まったく寄与しなかった 0.0%  
 分からない 0.0%

✓ 処方から1ヵ月後の医師アンケートでは、すべての医師が、薬剤師の患者支援について“医師の負担軽減”にも“患者のアプリ使用継続”にも「とても寄与する」と高く評価した。

### 参加者の声

#### ○ 患者

- ・アプリを始めてから減塩を意識しました。これからもアプリを使用して、血圧が下がる生活をしていきたいです。
- ・アプリの使用状況について、薬剤師さんから毎週確認の電話をいただき、その都度、疑問点を聞けたので良かったです。

#### ○ 医師

- ・薬局が積極的に指導しており、患者の理解が進みました。
- ・患者さんの治療に向かうモチベーションがアップしました。
- ・薬局が定期的に連絡することで、患者の意識づけになりました。

#### ○ 薬局薬剤師

- ・フォローアップでこちらから介入する薬剤師の対応により、患者が安心して治療を続けられることが分かりました。
- ・患者とアプリ情報が共有出来ないため、状況の聞き取りに時間を要しました。薬剤師側でもアプリ情報を共有することができれば正確に状況を掴めるので、もっと能率的に、かつ適切に支援ができると考えます。

## 考察

調査結果から、薬剤師による患者へのDTx支援が、患者のアプリ利用理解度の向上、アプリの継続使用、そして治療の効果的な進行に肯定的な影響を与えていることが示された。特に、薬剤師からの定期的な**フォローアップやアプリ使用に関する不安への対応**が、患者の満足度と**アプリ継続使用の意欲を高める**ことに寄与していると考えられる。また、薬剤師の支援が**医師の負担軽減**にも繋がっていることが明らかになった。

本事業は、DTxの普及が進む中で、薬局薬剤師が患者支援において果たす重要な役割を強し、DTxの効果的な導入と利用推進における薬局薬剤師の役割を理解し、その潜在能力を最大限に活用するための基盤となる。薬局薬剤師による患者支援は、DTxの適切な使用を促進し、患者の健康管理と治療の質を高めることに寄与する。さらに、このようなDTxへの薬局薬剤師の関与は、薬局DXの推進にも繋がると期待される。

本事業の結果を踏まえ、DTxのさらなる普及に向けては、薬剤師の研修プログラムの充実や、DTxの導入・支援に関するガイドラインの整備が重要となる。また、薬剤師と医師、患者間の連携を強化することで、DTxを含む治療全体の管理をより効果的に行う体制の構築が求められる。さらに、デジタルヘルスリテラシーの向上を図るための教育プログラムの開発と普及も、DTxの適正な利用を促進する上で不可欠である。

DTxは、医療の質を向上させ、患者の生活の質を高める大きな可能性を秘めているが、その実現には、薬剤師、医師、患者それぞれの協力と理解が必要である。今回の調査研究は、**DTxを取り巻く医療環境における薬局薬剤師の重要性を浮き彫りにし、今後のデジタル医療の発展に向けた一歩を示した**ものとする。

最後に、本事業により得られた知見は、DTxの有効活用に向けた政策立案や実践的な取り組みに役立つ貴重な情報を提供する。今後、デジタル医療の進展に伴い、薬局薬剤師の役割はさらに進化し、多様化していくことが予想される。その過程で、今回の調査研究が示した薬局薬剤師によるDTx支援の有用性の知見は、今後の医療提供の質の向上に貢献するものである。

## 結論

本事業において薬局薬剤師によるDTx支援の有用性を検証した結果、薬剤師の介入が患者のDTx利用において重要な役割を果たすことが明らかになった。薬剤師によるサポートを受けた患者は、DTxアプリの理解度が高まり、使用継続性が向上し、結果として健康アウトカムに肯定的な影響が見られた。さらに、患者満足度の向上や医師と薬剤師の協力体制の強化が確認され、DTx導入の効果的なプロセスにおいて、薬剤師の役割が極めて重要であることが示された。

この調査研究から得られた知見は、DTxの将来的な普及と適正使用に向けた政策立案や実践的な取り組みにおいて、貴重な指針を提供するものである。特に、デジタルヘルスリテラシーの向上が求められる現代において、薬剤師による患者支援がDTxの普及に極めて有用であることが示された。薬剤師は、患者がDTxを効果的に活用し、その潜在的な健康改善効果を最大限に引き出すためのキーパーソンであると言える。

今後、DTxがさらに進化し、多様な医療分野での利用が期待される中で、薬局薬剤師の役割はさらに重要性を増していくことが予想される。薬剤師による患者支援を強化し、**地域における医師と薬剤師の連携を促進することが、DTxの普及に不可欠**であり、さらにデジタル時代の医療提供の質の向上に欠かせない要素であることが示された。